



三ヶ尻隆雄議員

畜産振興

畜産農家に対する支援は

状況により指導を重ねている

質問 農協合併に伴った畜産農家の支援と堆肥センターの今後の運営見通しは。

沼崎町長 昨年の春以降、本年5月1日の合併まで、農家現場では急激な変化に混乱が続いている。刻々と変わる現場の悩みに対して、状況に合わせて支援、指導を重ねている。JAみやこの合併方針に従い、取引を停止された農家があるのは事実ですが、それでもまだ牛が厩舎にいたるのも事実である。現在、新組織となつて間もないこともあり、新たな事業計画を議論するのは難しい状況であるが、私からの新岩手農協組合長へ

の要請、事務レベルでの協議など可能な限り対応している。

堆肥センターの経営計画については、指定管理者の協定に基づき毎年提出してもらい、実績も毎月把握している。JAの子牛委託新規導入停止が続いている現状では、今後半年間でさらに200頭ほどの減が確実である。

現在、JAの取引可能農家への新規導入、JA以外での肥育事業の可能性などについて、農家のカウンセリングを重ねながら関係機関の情報収集や働き掛けを行っている段階である。

施設整備

川の駅を豊間根に 河川を管理する県と協議

質問 道の駅は船越地区ですが、川の駅を豊間根地区に計画してはどうか。

沼崎町長 「川の駅」は、川を通じた人の出会いと交流を促進するため、船着場などに休憩場所を設け、来訪

町の考えを聞く



「川の駅」について河川を管理する県と協議することになります（繋地区の津軽石川）

者に地域情報を発信したりする施設で、カヌーや釣りなど娯楽の提供に加え、災害時の避難場所の役割も期待される施設である。

去る5月11日、「川の駅」の普及に向けて、自治体の

首長で構成する全国組織の推進協議会と市民団体関係者を中心とする推進実行委員会が発足し、各地の自治体と連携して「川の駅」を整備していくこととし、また、自治体の財政負担を軽減するため、既存の施設の活用を中心とする方針を掲げている。

今後は、豊間根地区の1年を通じた河川の状況と、「川の駅」としての適地を考慮しながら、河川を管理する県と協議してみたい。